令和４年度　　支援学校小牛田高等学園　の研究概要　～令和５年１月末現在～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　運営委員氏名（　五十棲　康紘　）

|  |  |
| --- | --- |
| 研究テーマ | 社会的・職業的に自立する力を育成するための指導の在り方を探る～思考力・判断力・表現力を育む授業改善を通して～ |
| 研究目標 | ・生徒が社会人としてよりよく生きるために，課題や困難を改善し，社会参加に関わる資質を養う力を付ける。・人と「かかわる」，より良い生き方を「もとめる」，社会での役割を「はたす」ことができるような力を付ける。 |
| 研究内容・方法研究計画等 | ４月２７日　研究全体会５月１７日　スキルアップ講座６月１７日　校内研究日(グループごとによるテーマ設定)６月から９月　授業力向上研修(授業実践)９月１３日　校内研究日(グループごとによる授業検討会)１０月１９日　スキルアップ講座１１月３０日　校内研究日(グループごとによる授業改善の話し合い)１月２６日　校内研究日(グループごとによる研究成果発表)２月　８日　スキルアップ講座３月　９日　研究全体会 |
| 研究の概要　・研究経過　・研究成果等 | 「社会的・職業的に自立する力を育成するための指導の在り方を探る」ことを主題として，令和２年度より３年計画で研究実践を行ってきた。今年度は，より良い授業づくりを目指し，副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業改善」として実践を行った。実践方法としては，教科・領域を中心としたグループを設定し，望ましい授業の在り方や授業における方向性に関する意見交換を行える機会を設け，また，学習指導案（略案）を全員が作成し，一定期間内に，研究テーマを踏まえた授業実践し，相互で参観した。さらに授業実践終了後に事後検討会を設定し，参加者の多くから意見を吸い上げ，以後の授業に生かすことができるようにした。教科・領域ごとに分けたグループを設定したことで，先生方がテーマをもとに各自の授業計画や，指導の方法，教科や領域における指導の方向性などについて活発に話し合いを行う場面が多く見られた。また，ＰＤＣＡサイクルによる継続した授業改善が意識され，常に自己の授業を振り返って分析し，生徒の資質・能力の育成に向けて伸ばしていきたい力やそのために考えられる手立てを考えながら，授業を展開する姿が多く見られるようになった。 |

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお，項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。